

教育長室からのお知らせ No. 77(令和 3 年 12 月)



教育長 田中 廣史

店先にシクラメンやポインセチアが並び始め、冬の訪れを感じます。師走の慌ただししい時期となりますが、この 1 年を振り返って経験をしっかりと糧にして、新年につなげていきたいと思えます。

1 月からの 3 カ月はあっという間です。各園・学校では、冬季休業に入るこの時期から、今年度のまとめを意識した 3 学期の園・学校運営について思索してまいります。教職員は、日頃から、園児・児童・生徒の実態を把握して、学校評価等を活用しながら課題を明らかにし、自園・自校でそれを共有して相談しながら、さまざまな手立てを講じています。12 月には、2 回目の学校評価（保護者アンケート）が行われます。形成的な評価を加えて 1 回目からの変化を見ることで、成果と課題をあぶり出して見える形にし、年度末の子どもの姿を意識しながら 3 学期に向けての軌道修正を行ってまいります。子どもたちの日々の様子から見取っている先生方の評価と保護者からの評価、子ども自身の評価を突合せると、認識の違いや新たな課題が見えてくるのではないかと思います。

先月、市長の招集により「総合教育会議」が開催され、2 つのテーマを協議事項として、市長と教育長、教育委員が懇談する機会をいただきました。テーマの 1 つは、「子どもに合わせた学びについて」です。発達に課題のある子ども、日本語支援や医療的配慮が必要な子どもが増えており、学びのニーズが多様化している一方、GIGA スクール構想により、一人一人の理解度に合わせた指導が可能になってきています。このようなことを背景に、会議では、子どもたちの多様なニーズに応えるための取組について意見を交わしました。私からは、ICT も重要ですが、人材発掘と授業改善がやはり大事だということをお話ししました。教育委員さんからは、結果論に終始しないためには、ICT 等を活用して子どもの学びのプロセスを可視化し、保護者や地域に発信していくことが重要だというご意見や、家庭への支援は学校が入れない部分もあるので、民間の力を積極的に活用して家庭学習を充実できないかというご意見がありました。また、ICT は家庭の差が心配だが、上手くいけば多様な子ども一人一人の課題をフォローする学びになり得意なところを伸ばすきっかけにもなるというご意見、大事なものは教員が自ら ICT に向かい学ぶ意識を高めていくことであり、そのために、専科の増員等により、教員が勉強する時間を捻出できないかというご意見もありました。もう 1 つのテーマは、「家庭・学校・地域の連携について」です。子どもの自己肯定感を高めるためには、子どもが家庭・学校・地域のさまざまな関わり合いの中で、コミュニケーション能力を高め、知識や経験を得ることが必要です。市長からは、学校は子どもたちが勉強する場所ではあるが、それよりもっと広い意味があり、地域に溶け込んでいるのだということを出していき必要があるとお話しいただきました。三者の連携は子どもたちの教育環境を豊かなものとし、学びに広がりや深まりをもたらします。家庭・学校・地域が対話し相互理解を図りながら成長し合えるよう、各園・学校では日頃から丁寧な関係づくりに努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症の第 6 波やインフルエンザの流行が危惧されます。子どもたちの学びを止めないためにも、各園・学校においては感染防止対策を引き続き徹底してまいります。